

会 議 録

会 議 の 名 称	上尾市人権施策推進協議会 令和7年度 第2回会議
開 催 日 時	令和8年3月10日(火) 午前10時00分～午前11時20分
開 催 場 所	上尾市役所7階 大会議室
会 長 氏 名	吉澤 章子
出席者(委員)氏名	吉田るみ子、菊池波江、殿岡芳直、鈴木菜美(代理)、石川裕一郎、根岸遼、吉澤章子、酒井憲司、鈴木玲子、高橋貞夫
欠席者(委員)氏名	松本千織、東海るり子、大木まみこ、安田朋子、森田治孝
事務局(庶務担当)	白石生涯学習課長 武田指導課長 人権男女共同参画課：内山課長、田村主幹、野崎主査、内田事務業務員
会 議 事 項	1 議 題 (1) 第26回あげおミーティング実施報告について (2) カスタマーハラスメントについて (3) その他
議 事 の 経 過	別紙のとおり
会 議 資 料	・ 配布資料 資料(1) あげおヒューマンライツミーティング事業実施報告書 資料(2) (厚生労働省) 資料(3) (政府広報) 資料(4) 地方公務員のハラスメント対策について(総務省) その他 人権施策推進協議会委員名簿 人権啓発リーフレット「誰か」のことじゃない(令和7年12月発行) (令和6年12月発行プリント)
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 8年 3月 30日 会 長 の 署 名 <u>吉澤 章子(原本自筆)</u>	

議 事 の 経 過

会長	議事（１）第26回あげおヒューマンライツミーティング実施報告について
事務局	資料に基づいて説明。
委員	今回のヒューマンランツミーティングでは趣向を凝らして盛り上がっていた印象であったが参加できなかった。同日開催の催しと重なる団体は残念であった。
事務局	<p>市では、LGBTQの大道芸人マジシャンによる、マジックを交えた講義を企画し、多くの市民の皆様にご参加いただくことができた。</p> <p>LGBTQの人権は、大切な社会課題である一方で、性質上、性的少数者の方はご自身の立場をカミングアウトするのが難しい社会背景があり、当事者のお話を聞く機会は貴重と考え企画したものである。</p> <p>講義は、性別違和に関することや、性的少数者であることによる生きづらさなど、LGBTQ当事者の方ならではの内容であり、市民の皆様が、性的マイノリティの方の人権に関する理解を深めていただく機会になったと考えている。</p>
委員	<p>私の団体ではワークショップを開催した。会員さんの家族について話す良い機会となった。子ども時代を一緒に過ごしてきた兄弟が、障害のある兄弟がいるということでいじめに遭っていたということ、子ども時代にはなかなか言えなかったが、大人になってから「お母さん、あのとき私こうだったんだよ」「妹のことでいろいろ言われたんだよ」と大人になって初めて話したということ聞いた。</p> <p>今までこういう話を聞くという機会はなかなかなかったが、ヒューマンライツミーティングに参加できたおかげで、こういう話を聞けるということは、本当にいいことだなと思っている。</p>
委員	<p>私の団体では相談室ブースと展示を行った。</p> <p>出展は、性教育に関する展示やブースを通して年齢問わず人権に関わる大切なことや役立つ情報が得られるような内容であった。</p> <p>「ダブルスタンダード」については、ファストフードをお屋にパパが買ってくると「カッコいいパパ」というイメージで捉えるが、ママが買ってくると「怠けている」と思われる、という内容などについても話し合った。</p>
事務局	<p>教育委員会では、ホールでの人権標語、作文表彰、地域クラブによる合唱を行った。子どもたちの表現活動の成果を発表する場を設け、市民の皆様にご鑑賞いただくことで子どもたちは自分の活動を認めていただく機会となる。</p> <p>このような取り組みを通じて、参加した子どもたちの自己肯定感が向上していければと考えている。</p> <p>また、子どもが興味を持つ企画を絡めることで、人権に関する意識が広がっていくと良いと感じた。</p>
委員	来場者数をカウントされているが、来場者数の中で、例えば小学生以下と思われるようなお子さんの数などはカウントされているのか。
事務局	パンフレットを入場者に配布し、配布数を入場者数としてカウントする方法を採っている。小学生以下など年齢層の内訳は特にカウントしていない。

<p>委員</p>	<p>市職員スタッフの意見で「次の開催に向けた改善点等」として、このヒューマンライツミーティングの目的に照らし、今回の取り組みは良かったのかという趣旨のご意見があがっていたと思う。</p> <p>おそらくこの開催の趣旨から「市民・団体相互の交流を促進する」という意味では大変うまくいったのではと思う。</p> <p>お子さんの参加者を増やしていくことが重要と思う。参加人数自体もちろん大事だが、同時にお子さんの人数、概数で良いが、例えばスタンプラリーの数とか、そういうもので一定把握をして、お子さんの参加人数が今回のくらいあったのかなど、把握できるようにすると、より効果のある企画になると思う。</p> <p>出展団体はみなさん企画の中身を色々工夫されており、私もこういうのを考えるのが好きですが、以前参加した企画ですごく良いなと思ったのが、ある団体さんが企画した「謎解きを組み合わせた『防災謎解き』」です。</p> <p>防災訓練はどこに行っても大体つまらなく、子どもには辛いだらうと思うが、防災訓練に謎解きを組み合わせると、お子さんにとってはゲームになる。</p> <p>同じようなことが人権の話でもできれば、スタートラインにもなると思う。謎解きは色々な組み合わせがあって、各会場に謎が隠れていたりすると、人が足を運ぶ動線にもなる。</p> <p>これらを組み合わせると良い企画になっていくのではないかと思うので、ぜひ参考にさせていただきたい。</p> <p>今後の参考にさせていただきたい。</p>
<p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>今年初めて上尾・伊奈地区保護司会がこの会に参加させていただいた。</p> <p>今まで我々「保護司」という仕事は、(犯罪を経験した人に接する仕事であるため)人に知られないように、なんとなく、対象者が自分の家に来ることも遠慮したり、対象者の家に行くにも目立たないようにしたり、というのがあり、「保護司」というのは何なのだろうといつも思いながら、なんとなく肩身の狭いような思いをしてきた。</p> <p>今回ヒューマンライツミーティングに参加させていただいて、「保護司」とはどんな仕事なのか、という展示をさせていただいた。</p> <p>「犯罪者にも人権はある」と言ってもなかなか理解してもらえないのが正直なところだが、今回参加して「保護司」という仕事をしている人がいるのだ、ということを知ることができた。</p>
<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>議事(2) カスタマーハラスメントについて</p> <p>資料に基づいて説明。</p> <p>地域包括支援センターでの現状について説明や意見。</p> <p>公的機関におけるカスハラについて説明。公的機関では、民間企業におけるカスハラとは違った悩ましい問題もある。</p> <p>窓口や電話などの市民対応において、一部、カスハラと見受けられる事象も残念ながらあるのが実情である。</p> <p>当市においても、他市と同様、庁内をカバーする電話機の更新時期に合わせ、録音機能を持つ電話機を導入したところ。</p>

<p>会長</p>	<p>全国的な取り組みを見ると、カスハラに関する条例を制定し、厳正に対処することなど規定したり周知したりする自治体も出てきている。</p> <p>私たちの団体では「相談業務」を行っており、「市の職員のいじめ」という内容で相談に見えたケースがあった。</p> <p>話を聞いたところ「市の職員が市民に責められる」という事象だった。</p> <p>要は、市の職員に非があるわけではなく、市民側が「自分の思いどおりにやってくれない」という思いがあることで、市の職員が責められているわけです。</p>
<p>委員</p>	<p>最近、民間企業の所々で見かけるが、「カスタマーハラスメントは許しません」という札が目に見えるところに貼ってある。</p> <p>市の職員に対するカスタマーハラスメントということを考えたとき、市では、市の窓口などでこのような周知をされているのか。</p>
<p>会長</p>	<p>本来は全庁的に「カスハラに対してはこう取り組むんだ」という姿勢を明確にさせていただくと、いろんな施策が変わってくるのかなと思う。</p> <p>内部的なところを良くして、皆さんの就業環境を良くする動きも同時にしていきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>議事（3）その他</p> <p>資料に基づいて説明。</p>
<p>副会長</p>	<p>講評</p>
<p>副会長</p>	<p>閉会あいさつ</p>
<p>事務局</p>	<p>【閉会】</p>